

# 第11分科会「里山と森づくり」

テーマ：小山町観音地で植樹祭と自然観察会－  
砂利採取跡地産廃計画跡地の森づくり

日時：2008年3月8日（土）

場所：千葉市緑区小山町観音地周辺谷津

参加者：観察会52名、植樹祭152名

スタッフ：小高守正（千葉市板倉大椎土地改良区理事長）

他同理事、橋本昭一（前小山町内会長）

他同住民、奥山淳（緑の環・協議会理事長）、金井章男、椎名隆志、星野正人、星野静枝

## 内容：

目的は、身近な地域の自然と森林の大切さに目を向け地域住民と子供が参加し、村田川源流域の水源涵養林として、砂利採取跡地1.5haに600本を植林し、成長を願いお祝いする。

当地は、砂利採取跡地であり産廃計画地を公売によって業者と競り勝って土地改良区が取得した里山である。地元住民と都市住民が協力して復元を図るため、子供を主体とした村田川源流域の谷津田や生活井戸水の観察と里山の関係を学び、貧困土壌への多種類の樹種の苗木600本を植林した。土地改良区はこの里山の直下の水田で稲作を行っており、「いい水でいい米を作れる環境を孫子の代まで伝えたい」と思いを形に変える行事とした。また、土地所有者や農林業を営む人と都市住民の共同で都市周辺部の残された貴重な自然を保全し再生していく壮大な実験プロジェクトである。さらに、このイベントを通じて、縦割りの行政を一つの課題目的のために問題解決型の支援をどのように獲得するかも試された。



## 行事実施概要

〔第1部〕自然観察会（小学生対象：33名、大人19名、観察指導員の方6名）

〔第2部〕植樹祭（参加人数：子供36名、大人116名、152名）

準備作業穴掘り、理事長挨拶、来賓紹介、植樹の手順説明、班分け、苗等の寄付紹介、注意事項を説明の後、普及指導員の植え方実演指導、植林作業、水遣り、霜よけ風よけワラ敷き。プレート作成・感想カード（28枚）

記念品抽選会 参加賞（小冊子「くまともりとひと」、参加賞景品）

懇親会 復元等懇談として意見交換を行った。植栽された姿を見ながら、率直な感想などがそれぞれの立場から出された。

## 植栽エリアと主要樹種

植生調査の時に中心を決め、4つのブロックに分けたものを基に、現存植生のエリアを配慮して散策道を作り、手入れの際に大型機械を通す間隔・通路等を確保しました。

A：下泉・森のサミット、

B：千葉県（みどり推進課、林務課）

C：コナラ・クヌギ（緑の環）

D：コナラ・クヌギそのほか持ち寄り

E：マツ（土地改良区）・いろはモミジ

F：ヤマザクラ、

B 通路北側：こぶし（各エリアに主として配置し、種類が混ざるようにし配分しました）

## 懇談会 発言要旨

・企業として紙を扱って折り森林の問題に関心を持っており、下泉のリコーの森の隣で雑木林を育てているも移植されるなどご縁があり、素晴らしい取り組み。企業の幹部の講演謝礼をプールして意義ある活動に支援しているので、協賛支援したい。

・市では土地改良区の事業を長年支援してきたところでありこの取り組みが成功することを願っている。

・里山シンポジウムは、千葉県内で里山センターを作り里山条例の地域が参加して活動している団体等が参加して、5/18に東京情報大学で第5回の総括シンポジウムが開催されるので、この取り組みも2番目の分科会「里山と森も復元」として参加頂き、発表して欲しい。

・あすみが丘住民として産廃の件では心配していたが植樹祭に参加でき、今後、森に復元していくために一緒に手入れや植林の活動に参加していきたい。

・地元として大勢の方の力を得たことを踏まえて私たちも協力して守っていききたい。

・産廃の脅威は開発地の周辺に多くこの辺りで守られているのはこの村田川源流域のところくらいで、これは皆さんの信念と土地改良区として土地の購入を決定してくれたことによるもので、あすみが丘はじめ大勢の方の力を得て今後も環境を守っていきたく、ご支援をお願いしたい

## 参加者の感想等

・子供会役員の方：

①とても楽しく子供たちも親も経験のない生き物や井戸水にふれ、生き生きしていた。

②植えた木の様子を時々見に来たい。

③手入れなどをするとき参加したい。

④こんなに貴重な自然が残っていると知らなかった。

木の様子を時々見に来たい。手入れなどをするとき参加したい。

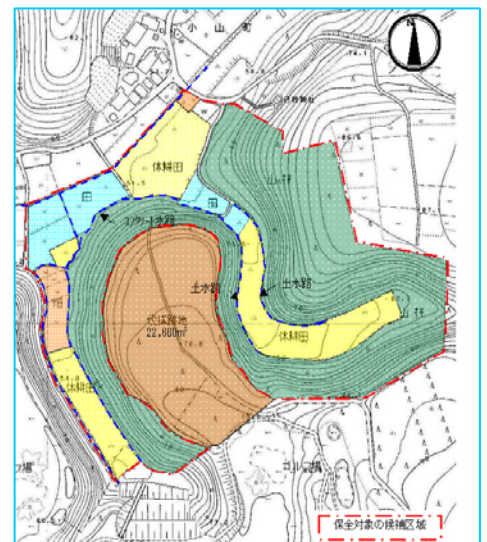
観察会に大人の方と一緒に参加したいとこられた方：こんなに貴重な自然が残っていると知らなかった。

植林に参加できてよかった。

土が砂地のように栄養や水分がないのには驚いた。

うまく育てて欲しい。

あいているところも、早く木が育つ環境にしてあげたい。



## 問題点と対策

①土地改良区だけでは、産廃計画跡地の森づくりは困難であり、多くの関係者の支援が必要。

②小山町に残る里山の自然の大切さを参加者にアピールできた。

③事前準備活動を通じ、専門家からの植栽計画指導、苗木・腐葉土の提供等多くの関係者からの支援・協力が得られた。

④土地改良区組合員と地元住民との交流ができた。

## まとめ

参加者を中心に「森を守り育てる会」を立ち上げ、定例的に森の手入れ活動・自然観察会を実施するが、息の長い活動となるので、できるところからできるだけのことを実践する等運営方法に工夫が必要。